

メンタルパワーモデルによる 組織の局所安定領域

2006.02.26

情報コミュニケーション学会

飯箸泰宏

明治大学・法政大・慶応大講師

株式会社サイエンスハウス代表取締役

1.問題意識

- ✳️ 組織とは定常流的実在で有り、きわめて危ういバランスの上で維持されている。
- ✳️ 崩壊しそうな組織もたくさんある。
- ✳️ 企業・大学・諸団体にとって、最強の組織であり続けることは焦眉の課題である。
- ✳️ 無自覚の組織崩壊は被害が大きい。
しかし、えてして、組織は無自覚のうちに崩壊の危機に直面する。
- ✳️ リーダの任務は、組織の局所安定領域を見極めて、必勝の陣形を常に再構築することである。
- ✳️ 局所安定領域は常に複数存在する。必勝の局所安定領域はどこか、座して死ぬ局所安定領域にその組織は嵌っていないか。

2.メンタルパワーモデルの提案

- ★ 組織とは定常流的実在であり、きわめて危ういバランスの上に存在している。

人と人のつながりの上に作られていながら、その要素たる人は他の組織にも同時に所属しているし、その上、脱退したり、新規に参加してきたりもする。

生き残る組織もあるが崩壊する組織も多い。従来言われてきた強さ、硬さ、大きさという尺度だけでは、生き残る組織を見つけることは困難である。
- ★ 開放系の熱力学に習って、熱量に対応するメンタルパワーという「量」を導入することによって、組織の局所安定領域を発見することができることをここでは示すことにする。

3. ”湧出なし” のモデル(モデル1)

- 組織Oの中に、ある”志”のグループがあるとする。単純のために、モデル1では、”志”が高いが、常に知が湧き出してくる源泉(thought leader)のようなものはないと仮定する。
- そのグループのメンタルパワーの総量をPとする。
- メンタルパワーPは一般に次のようにあらわされるものとする。

$$P = q \cdot c \cdot m$$

q: 支持率

c: メンタル比熱

m: メンタル温度

- 任意の”志”グループを取り上げ、グループ間の干渉がないと仮定すると

$$\frac{dP}{dt} = \rho_w q (m_w - m) \quad (1)$$

ρ_w : 環境とOとの比メンタルパワー伝達速度

w: 環境

- ここで、

$$q = 1 - e^{-\rho_0 P} \quad (2)$$

この仮定によれば、メンタルパワーが大きければ、組織率が1に近づく。すなわち100%に近づく。メンタルパワーが小さければ、組織率が0に近づく。すなわち0%に近づく。

と仮定する。

ρ_0 はO内の比メンタルパワー伝達速度。

3-1. モデル1支持率の変化

- ★ 実数の範囲で(1)、(2)から、組織率 を求めると次のようになる。 $0 \leq C \leq (1/4)$
- ★ q について解くと

$$q^2 - q + Ce^{-\rho_0 \rho_w (m_w - m)t} = 0$$

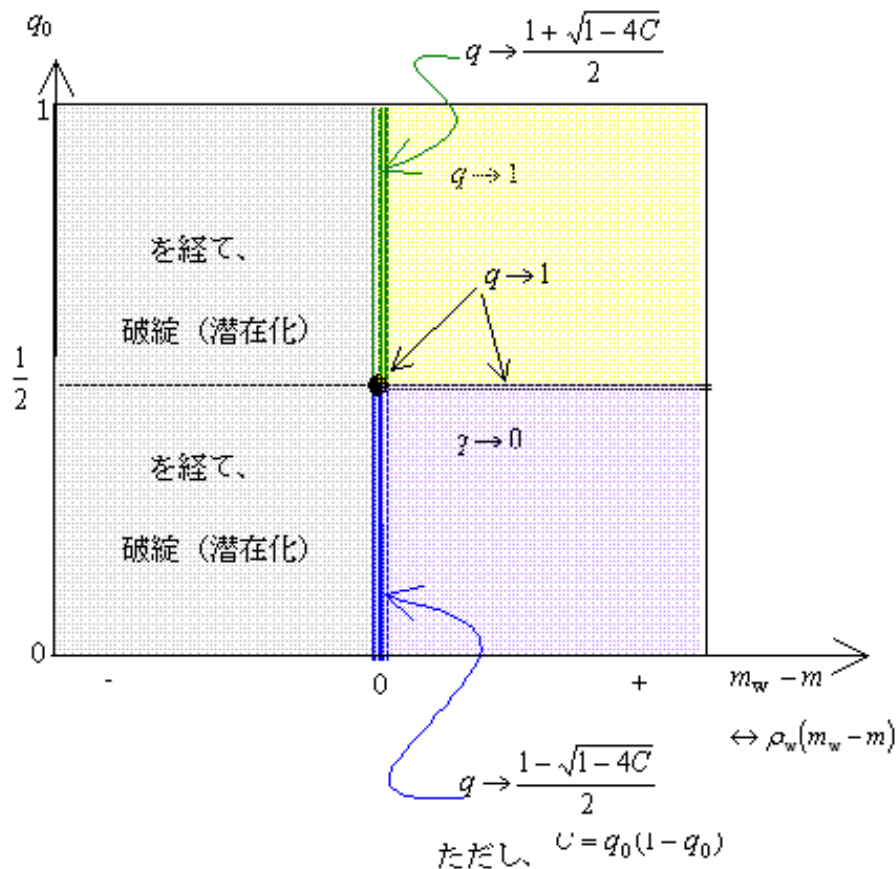
$$q = \frac{1 \pm \sqrt{1 - 4Ce^{-\rho_0 \rho_w (m_w - m)t}}}{2}$$

$$D = 1 - 4Ce^{-\rho_0 \rho_w (m_w - m)t} \text{ とすると}$$

$$q = \frac{1 \pm \sqrt{D}}{2}$$

- ★ $q_0 < 0$ はありえないので、 $q_0 \geq 0$ のみを考える。
- ★ 時間 $t \rightarrow \infty$ の場合を求めると、次のようなグラフが得られる。

3-2. 湧出パワーなし、生存範囲



$t \rightarrow \infty$ のとき、初期値によって到達する q 値の違い

3-3. 湧出パワーなし、教訓

- 孤立する組織や社会(グラフ中央の縦線部分)は、安定する可能性がある。ある意味で、鎖国政策は成立する。
- 周囲よりも”志”が高い組織または社会(グラフの左半分)は一時半分を収めることが出来ても、常に破綻する運命にある。
正直者の口バは疲弊し、良貨は悪貨によって滅ぼされる。
”志”が高い組織または社会が生き残るには、モデル2へ。
- 周囲よりも”志”が低い組織または社会(グラフの右上)で、初期に過半数を占めているグループは、全員を一つにまとめることに成功する。「過半数を超える抵抗勢力」はモノも言わずに生き残る。犯罪者だけの集団、不良グループは放置されれば安泰である。
- 周囲よりも”志”が低い組織または社会(グラフの右下)で、初期に過半数を占めていないグループは、かならず、消滅する。善良な市民の前に引き出された犯罪者集団、不良グループは解体する。

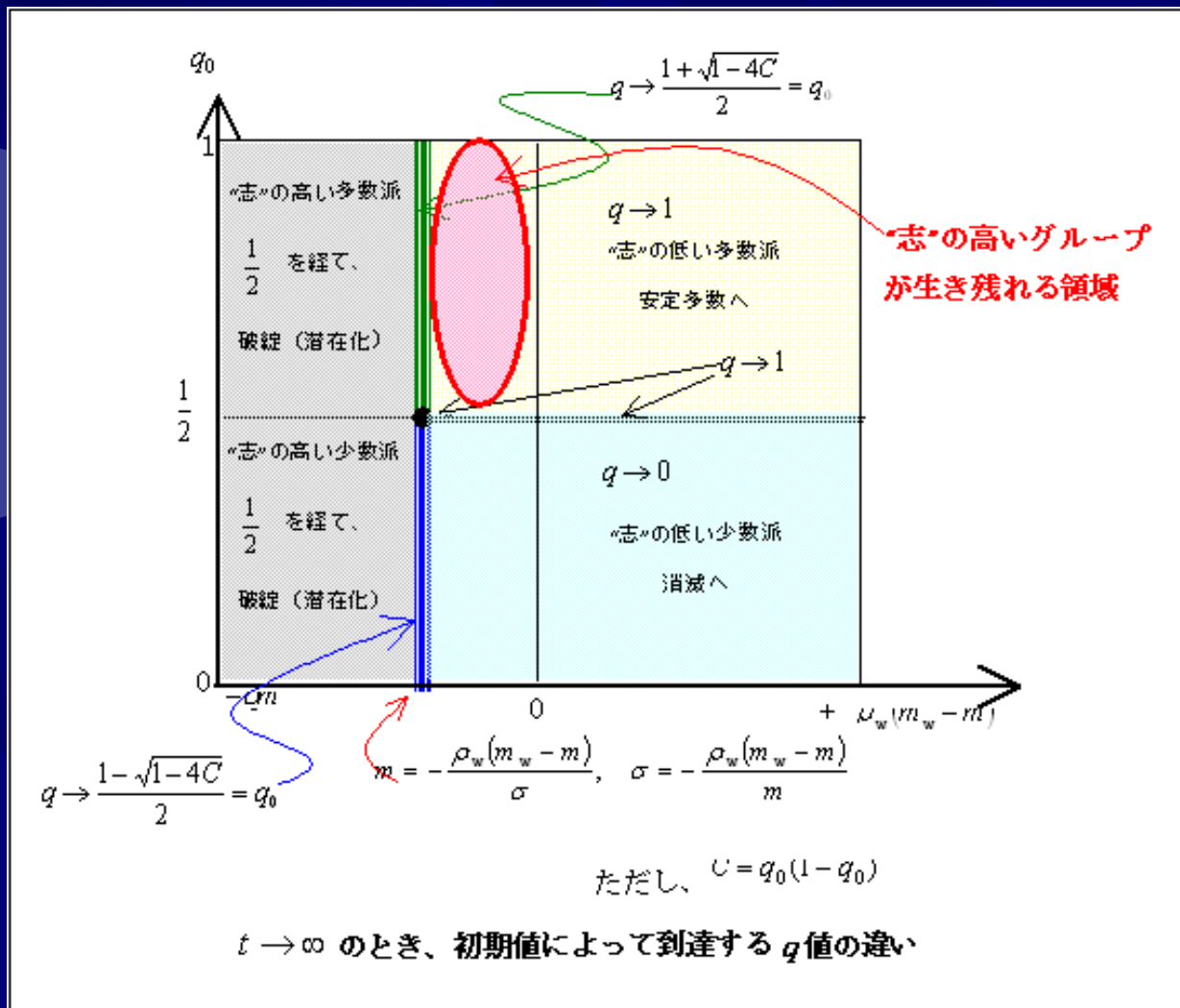
4. “湧出あり”モデル(モデル2)

- ★ モデル1の(1)式にメンタルパワー湧出の項を追加する。これは、常に知が湧き出してくる源泉(thought leader)が存在することを意味している。

$$\frac{dP}{dt} = \rho_w q(m_w - m) + \sigma qm \quad (1)$$

σ : 比メンタルパワー湧出率

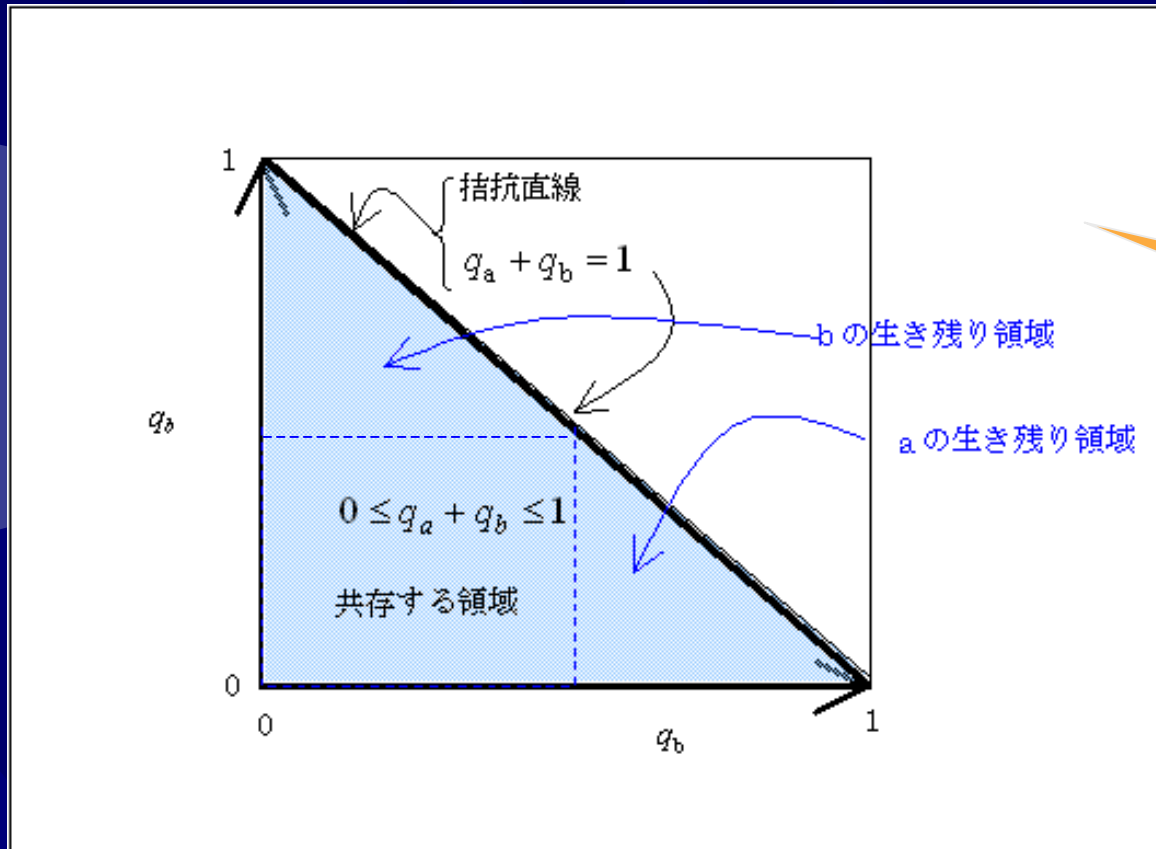
4-1. 湧出パワーあり、生存範囲



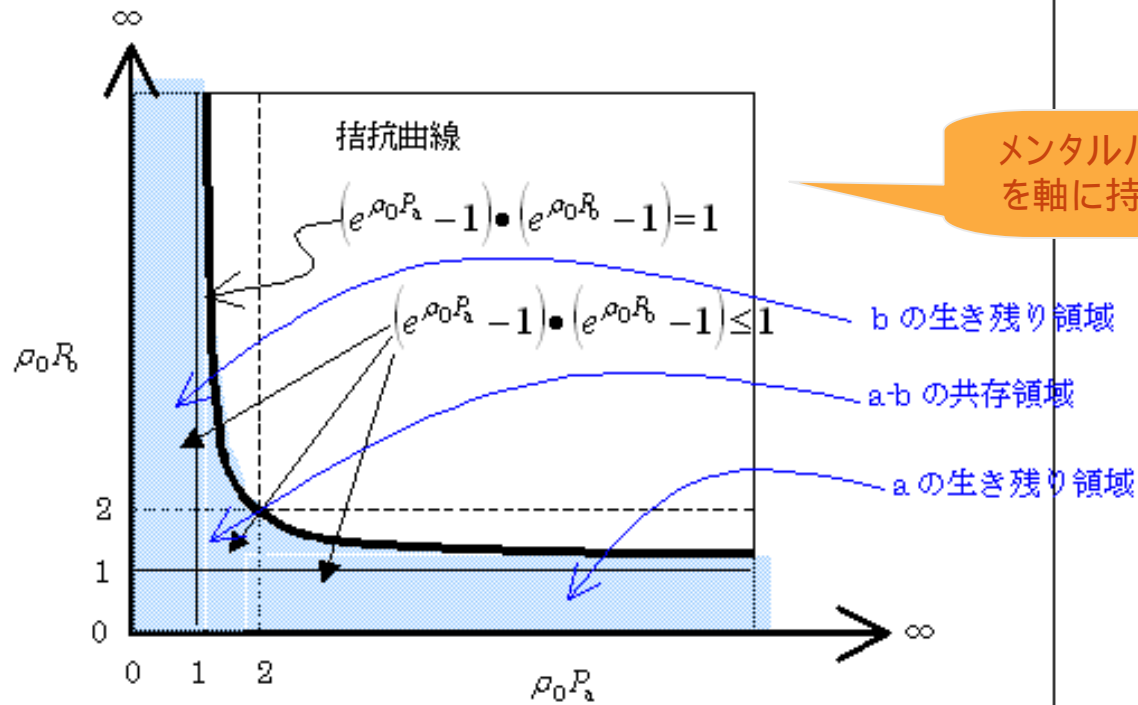
4-2.湧出パワーあり、教訓

- ✪ 孤立する組織や社会(、グラフ中央の縦線部分)は、安定する可能性がある。ある意味で、鎖国政策は成立する。
- ✪ 周囲よりも”志”が高い組織または社会であっても、メンタルパワーの比湧出率が環境から影響を受ける割合よりも大きい場合は、生き残れることを示している。
正直者のロバ
は報われて、良貨は悪貨を駆逐する。
- ✪ 周囲よりも”志”が低い組織または社会(グラフの右上)で、初期に過半数を占めているグループは、全員を一つにまとめることに成功する。「過半数を超える抵抗勢力」はモノも言わずに生き残る。犯罪者だけの集団、不良グループは放置されれば安泰である。
- ✪ 周囲よりも”志”が低い組織または社会(グラフの右下)で、初期に過半数を占めていないグループは、かならず、消滅する。善良な市民の前に引き出された犯罪者集団、不良グループは解体する。
- ✪ メンタルパワーを常に湧出させるとは、リーダーが優れて知の開拓者であるか、メンバーが環境から良く学び、知を作り出して共有する力を持っている場合のみ可能である。

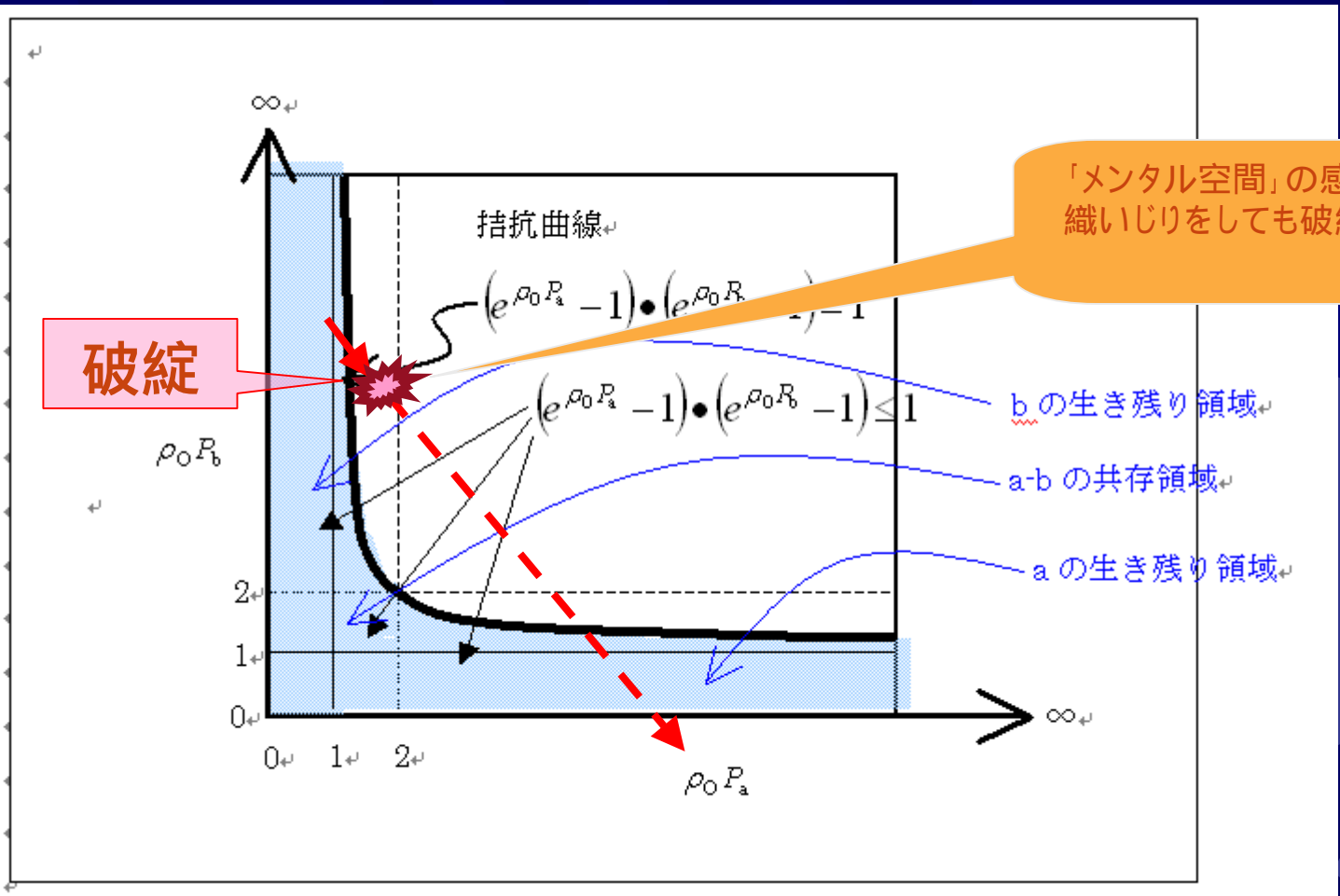
5.二グループ、共存領域(補足)



組織率を軸に持つ「実空間」



メンタルパワーの湧出速度
を軸に持つ「メンタル空間」



「メンタル空間」の感覚で組織いじりをして破綻する。

The background is a dark blue field filled with various sizes of semi-transparent gear shapes. On the left side, there is a vertical strip of colorful, textured gear images in shades of orange, yellow, and brown. The text '終わり' is centered in the blue area.

終わり